

歯科医師の矜持

歯学部卒業生の皆さん、そして保護者ご家族の皆様、この度のご卒業を心からお慶び申し上げます。皆さんが授与された学位記は歯学部規定の学業を全て修了した証です。入学時から費やされた多大な努力に心から敬意を表するとともに、皆さんをご支援くださった保護者ご家族の皆さま、熱心にご指導いただいた教職員の方々にも、衷心より厚く御礼を申し上げます。

また、大学院博士課程を修了して博士（歯学）の学位を取得された皆さん、新規性と独創性に優れた学術的価値の高い論文を作成し、専門ジャーナルにアクセプトされるまでには大変なご苦労があったことでしょう。学位取得のためのエフォートは、たとえ大学院終了後にどのような進路を選択するにせよ、必ず輝く未来に役立つものと確信しています。これからもぜひ研鑽を重ねて、歯科医学の発展に貢献していただきたいと思います。

さて、皆さんの大学生時代、大学院生時代は新型コロナウイルス（COVID-19）によりたくさんの制約がありました。課外活動を制限し、手指消毒や毎日の検温等を義務付けたのは皆さんの安全を最優先させた苦渋の判断とどうかご理解下さい。そして今年はインフルエンザがコロナのように猛威を振るいました。しかし、コロナ騒動の時もインフルエンザでも口腔内を清潔に保つことが、感染防止に非常に有効だということが広く再認識されました。だからこそ、大切な患者や仲間を守るために、私たち歯科医療従事者はいかなる感染禍にあっても日々最前線で闘い続けています。皆さんには歯科医療のコンダクターとして、国民の健康寿命の延伸に貢献する歯科医師としての矜持をぜひ持ってほしいと希望します。

本日の卒業にあたり、私からひとつ錢の言葉を送ります。アメリカの詩人であるエマーソンの“Every wall is a door. And you have the key”「すべての壁は扉です。そしてあなたはその鍵を持っている」です。誰でも理解できる簡単な英語ですので、ぜひ覚えておいて欲しいのですが、皆さんは今まで温室ともいえる大学の中で生活してきました。お節介と感じたこともあったかも知れませんが、実は皆さんは保護者の方々や私たち教職員に大切に守られていたのです。しかし今日から皆さんは温室から出て、社会の荒波に立ち向かっていくことになります。たくさんの試練を前にして泣きたくなることもあるはずですし、もうこれ以上は無理だと感じる壁にぶつかることもあるでしょう。しかし、皆さんが決して最後まで諦めずに、最大限の努力を惜しまなければ、その壁は必ず扉となって開き、前進することができるはずです。その扉の鍵はあなたの手にあるのです。

どうかこの鶴見キャンパスで過ごし学んだ日々を思い出し、幾多の試練を乗り越え喜びと幸せを掴んでほしいと思います。そして、鶴見大学歯学部同窓生の一人としても矜持を持ち続けて下さい。皆さんが建学の精神をいつまでも胸に宿しながら、患者さんや社会から信頼され、尊敬される歯科医師になられることを心から祈念して、私からの祝辞とさせていただきます。

ご卒業誠におめでとうございます。

令和7年3月14日
歯学研究科長・歯学部長
大久保 力廣

